

4月15日（金）

- ・夜熊本市着：熊本市内県庁付近ではほとんど被害は見られず。

4月16日（土）

・1時25分に本震発生。非常に強く揺れ、しかも余震が連続して発生したのか20分位も大きな揺れが続いた。

- ・その後も大きな余震が相次ぎ、朝までほとんど眠れない状態が続いた。

[現地調査]

1. 秋津レークタウン

- ・矢形川左岸に造られた団地である。
- ・秋津市営住宅側の入口の道路には噴砂があり、液状化したことを物語っていた。
- ・団地内は一段高くなっているが、噴砂や家屋の被害は見られなかった。

2. 間島団地

- ・木山川と矢形川が合流する箇所に造成された団地である。
- ・団地内ではあっちこちで噴砂しており、液状化したことを物語っていた。液状化により家屋に被害が発生していた。
- ・木山川沿いでは川岸から団地内にかけて地盤の流動が発生していた。その奥行きは40m位もあり、規模が大きいものであった。
- ・流動の影響を受けた区域では家屋が大きく傾いたり、杭基礎の家屋は40cmもの抜け上がりが生じていた。
- ・先端の公園のクラックを覗くと、1m程度の深さのところに水面が見えたため、地下水位はGL-1m程度と浅いと思われた。

3. 加瀬川右岸 9.8km

- ・すでにシートが貼られており詳細は分からないが川に向かって、背後地盤も含めて大きく滑って沈下したのではないかと思われた。
- ・堤防道路の堤内地側は少し高くなっているが、滑りの範囲はこの所まで及んでいた。表法面の肩より20m程度も堤内地側までクラックがはいっており、ここまですべりの範囲が及んだと思われる。
- ・滑った延長は数十mに及んでいた。
- ・滑った区間の上下流端では堤防を横切る横断クラックが表面に出ていた。深さはシートがあるため分からなかった。

4. 九州自動車道東側側道

- ・嘉島町北甘木付近の高速道路盛土東側法尻で水が浸みだしており、フェンスが傾いていた。

5. 東無田橋左岸下流

- ・堤防道路の川側への大きなすべりが発生していた。

6. 益城町

- ・震動が強かったことを物語るように、多くの家屋が全壊や半壊など甚大な被害を受けていた。特に屋根瓦の古い家の崩壊が目立った。
- ・東西に走る28号線の道路自体は路面の変状はあまり気にならなかった。
- ・役場付近では28号線に家屋が傾いて通行が困難になっていた。
- ・役場から北に上がると家屋の被害は減ってきた。

7. 九州自動車道（益城内）

- ・九州自動車道が 28 号線と交差する箇所より少し南側の東側法面で道路盛土の復旧工事が行われつつあり、ここが盛土に変状が発生した箇所と思われた。
- ・この箇所には法尻そばに小川か水路が流れており、これが被害にどのように影響したのかが気になった。

8. 大切畑ダム

- ・手前の西原郵便局で交通規制がかかっていたので、そこに車を止め、大峯を大きく南から回りこむように歩いて、大切畑ダムに着いた。途中、大きな落石が発生していた。
- ・湖岸の東側道路を歩いたが、途中で道路の斜面が崩れており、堤体まで着くことができなかった。
- ・その箇所で見ても水位は高くなかった。漏水で下がったのかもしれないが、不明である。

9. 立野

- ・交通規制がかかっている立野駅の少し先までしか行けなかった。
- ・そこから見ると、南側の斜面が至る所で崩壊していた。
- ・北側の斜面もいくつか崩壊していた。
- ・本震の断層線付近にあたるため、斜面崩壊が多く発生したものと思われた。
- ・南阿蘇橋が見えたが、遠いため被災状況は分からなかった。

10. 赤水

- ・ミルクロードは通行不可となっていた。
- ・23 号線で外輪山を越えて赤水にはいった。国道に着く前の小川に架かっている橋と取り付け盛土の段差の復旧工事が行われており、通行ができなかったので山際を通過して国道の被災箇所に着いた。
- ・道路が大きく崩壊してそれ以上行けなかったが、その先に斜面が大きく崩れて国道と線路を埋めた箇所があるのではないかと考えられた。
- ・赤水の近くの踏切で車両が脱線して止まっていた。
- ・国道から外輪山に向かう道路を探して挑戦したが、小川に架かっている橋の段差が大きくて越えられなかった。そのうちの一つの道路は 1m 近くも盛り上がっていた。暗くてよく分からなかったが、地表断層かもしれないと感じられた。
- ・結局内の牧温泉まで国道で東に行き、そこから大観峰に上がり、外輪山の上を通過して 23 号に戻って植木に到着した。

4 月 17 日 (日)

[現地調査]

1. 緑川右岸 8.4 km (野田北) 付近の堤防

- ・堤防が大きく沈下していた。昨日はシートがはってなかったとのことであるが、本日はシートがはってあった。
- ・堤内地の法尻に噴砂が見られた。そこからの坂路に大きな地割れが発生していた。
- ・堤外地高水敷には噴砂が多数発生していた。
- ・少し上流側ではまだシートが貼られていない箇所でも堤防が川側にすべり、沈下していた。

2. 刈草 1 丁目の住宅地

- ・治水地形分類図によると自然堤防の際にあたる地区で液状化が広く発生し、家屋が被害を受けていた。
- ・特に 3 階建ての 2 棟は被害が甚大で 1 棟は 50cm 近くも沈下し、奥の 1 棟は道路と反対側に大きく傾いていた。その傾いた建物の裏には近接して小さい建物があり、裏にまわってみるとその 2 つの建物が内側に傾いていた。したがって、2 棟が近接している影響で内側に傾いたのではないかと思われた。
- ・その南側の近くの 2 階建ての住宅も大きく傾いていた。

- ・西側には小川が流れているが、その水面は地表面から 1m 程度のところにあった。したがって、この付近の地下水位が GL-1m 程度と浅いのではないかと思われた。

- ・この小川は茶色に濁っていた。ただし、昨日から大きな川の水が茶色に濁っていたのが気になっていた。山の斜面が崩れてそのように濁ったのではないかと考えていたが、この小川はそのような山から流れてきたものではなく、湧き水ではないかと考えられる。熊本市では地下水を汲み上げて水道に使っており、地下水が非常に豊富な所である。したがって、もしかしたら地震の影響で、地下水がこのように濁ったのかもしれないと感じられた。

3. 加瀬川 6 丁目の住宅地

- ・治水地形分類図では旧河道に該当する所で、中心部に南北に河道が残っていた。

- ・量は少ないがあっちこちに噴砂が発生していた。

- ・河道に向かって流動が発生していた。ただし、大規模ではなく、奥行きが 20m 程度であった。

以上